

ほらーの花巻

2019
1
No. 251

光と豊と大地とともに
10th
広域合併10周年

特集 **1** JA県下統一誌面
輝け！未来人

特集 **2** 想いやニーズの実現をサポート
くらしの活動



「組合員とともに食と農を通じた豊かな地域社会を築く」 「自己改革へのさらなる挑戦」



代表理事組合長
阿部 勝昭

新年あけましておめでとございます。組合員、ご家族そして地域の皆様方に謹んでご挨拶を申し上げます。

平成31年は亥（ゐ）年、「亥」は「とざす」の意味もあり、草木の生命力が種の中に閉じ込められた状態を表しているとされます。JAいわて花巻は昨年、広域合併10年の節目を迎えました。これまでの成果（種）が実を結び、次の10年の布石となり、次代に繋げるため積極的に活動する年として進んでまいりますので、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は全国各地で豪雨被害や度重なる台風の襲来など、多数の気象災害が発生しました。当JA管内でも一部被害があったものの、園芸品目では全国的な集荷減による高単価で補われました。また、リンゴは目標収量の25万ケースを上回る26万5千ケースとなり、主力の「ふじ」においては蜜入りが良好で、市場評価が高まった年となりました。米の作況指数は最終的には「平年並

み」の101となりましたが、「昨年の「やや不良」より手応えが感じられなかった年となりました。しかし、農家組合員の努力により品質面では1等比率が98%と過去最高を記録した結果として、市場や実需の高い評価に繋がりを、JAいわて花巻の農畜産物の信頼を確保できたものと思っております。

本年は、5月1日には「平成」から新たな元号となるほか、3月には3年に1度実施されるJA全国大会も開催されるなど、節目の年となります。JA全国大会に先立ち、昨年11月に開催された第45回JA岩手県大会では、テーマである「組合員とともに食と農を通じた豊かな地域社会を築く」を採択し、自己改革の目玉である「農家組合員の所得増大と農業生産の拡大」へのさらなる挑戦を継続する事を確認しました。

今、JAは3つの危機に直面しています。1つ目は農業生産基盤の衰退による「農業・農村の危機」、2つ目は人と人との繋がりの組織であるJAの組織基盤の弱体化と収支悪化による「組織・事業・経営の危機」、3つ目は現代の社会・経済の行き過ぎた資本主義・個人主義に端を発する「協同組合の危機」です。JA運動に携わった先人が度重なる困難を克服し、今の私たちに繋いでくれたように、私たちJAの組合員や役員は、この3つの危機を協同の力で乗り越え、次の世代にしっかりと引き継いでいかなければなりません。また、農業を取り巻く環境は、国内においては人口の減少が進むなか農業者の減少や高齢化問題、そして米の生産調整見直し、いわゆる生産数量目標配分と、岩盤対策である米の直接支払交付金が廃止されました。国外においては、TPP11は十分な議論も経ずに平成30年12月30日に発効されました。また、日EU・EPAは情報開示も不十分なまま昨年12月8日に国会承認されたことに加えて、米国との二国間貿易交渉、いわゆるTAGの動きも加速するなど、更なる市場開放が迫られており生産現場には大きな不安が渦巻いています。

「組合員とともに食と農を通じた豊かな地域社会を築く」自己改革へのさらなる挑戦を、全役員が一丸となり全力で取り組みますので、組合員皆様方の変わらぬご指導ご支援をお願い申し上げますとともに、益々のご健勝とご発展を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

こうした、激変する国内外の情勢に全国JAグループが一丸となって対応する一方で、多様化する農業形態、組合員ニーズに対応するためにJAや地域ごとに個性ある戦略を立て、JA自己改革に取り組んでいく必要があります。JAいわて花巻も新たな10年を力強く歩むためにも、現在取り組んでいる第3次中期経営計画・営農振興計画を総括した上で、2019年度から始まる第4次中期経営計画・営農振興計画を着実に実践していかなければなりません。これらの取り組みにあた

亥の張り子

今月号の表紙を飾っているのは、「亥の張り子」です。豊かな文化を育み、古くからの伝統を守り伝えている「小田島民芸所」の職人が、和紙を使い一つひとつ手作業で丁寧に作りあげています。

十二支は、遠い昔から人間社会に欠かす事の出来ない神様です。人の運勢を12種類の干支に託して時を刻み、福運を運んでくれるありがたい神として私たちには縁の深い



結び付きがあります。新年を迎える準備として、その年の守り神である干支の人形を飾る事で、1年間家を守ってくれと言われています。

■小田島民芸所
花巻市材木町10-20

今年もよろしく
お願い申し上げます

代表理事組合長	阿部 勝昭
代表理事副組合長	高橋 勉
代表理事専務	島津 秀三郎
常務理事(金融・共済担当)	長原 典夫
常務理事(党・生活福祉担当)	佐藤 力
代表理事	新田 清孝
代表理事	伊藤 正克
代表理事	熊谷 正義
代表理事	藤池 政明
代表理事	高橋 司
代表理事	菅原 光一
代表理事	菅原 弘一
代表理事	高橋 洋一
代表理事	八重樫 京志
代表理事	玉山 孝光
代表理事	菊池 春夫
代表理事	吉田 正志
代表理事	菊池 正志
代表理事	安藤 勝隆
代表理事	石川 清隆
代表理事	本館 博
代表理事	高橋 博
代表理事	太田代 良市

代表理事	佐々木 重吾
代表理事	菅野 寛
代表理事	藤本 一廣
代表理事	松田 富雄
代表理事	川崎 裕一
代表理事	小森田 之
代表理事	佐々木 久雄
代表理事	鎌田 春夫
代表理事	佐々木 幸雄
代表理事	三浦 正純
代表理事	高橋 清純
代表理事	久保 公純
代表理事	照井 重光
代表理事	柳谷 敬志
代表理事	柳谷 敬志

ぼらーの花巻 CONTENTS
●No.251 / 平成31年(2019)1月号

02	新春のごあいさつ
04	特集1 JA県下統一誌面 輝け!未来人
08	特集2 くらしの活動
10	ぼらーのNEWS ●地域の記事
12	あぐりネット
14	Information ●理事会だより/監事会だより
16	風趣点景 ●管内四季だより/編集後記



JA新いわて

盛岡農業高校 植物科学科 野菜専攻 2年

福島 大地さん (17)

好きな農畜産物… キャベツ

学科の志望理由

家が農家で、父もこの卒業生でした。小学生の時、父から農業や高校生活の話聞いて漠然と農家になりたいと思ったのがきっかけです。そこから迷いなく進学しました。

夢中になっていること

ベジパウダーの新商品の開発です。3年生から本格的に実習が始まりますが、タマネギなどの水分の多い野菜をパウダーにできないか、岩手町の産直に協力を得ながら研究中です。

将来の目標

親の跡を継ぎ県内で生産量1位のキャベツ農家になることです。そして岩手町のキャベツ「いわて春みどり」を全国的に有名にするのが夢です。

JAに期待すること

学生でも参加しやすい、面白そうなイベントがあれば良いと思います。例えば、特産品を生かして大きさを競うキャベツコンテストなど、地域のPRにもなるようなことをやってほしいです。



JA江刺

岩谷堂高校 総合学科 生物生産系列 3年

阿部 諭季さん (18)

好きな農畜産物… 江刺金札米

学科の志望理由

家で農業をしているので、学んだことを手伝いに生かしたいと思い志望しました。田植えも稲刈りも手伝っていて、お米が大好きです。

夢中になっていること

自分たちが育てた農産物を加工し、食品にするという授業を経験し、今まで食わず嫌いしていたものも、大切に思い、おいしくいただけるようになりました。

将来の目標

国産の米を使ったお煎餅を製造している会社に就職します。会社に貢献することで、地元の米文化に貢献していきたいです。

JAに期待すること

「江刺りんご」が大好きで、1日3個は食べています(笑) リンゴはもちろん、米、牛、野菜とこれからも自慢の江刺ブランドをどんどんPRして行ってほしいです!



JAいわて花巻

花巻農業高校 生物科学科 作物畜産専門分会 3年

照井 優介さん (18)

好きな農畜産物… 米

学科の志望理由

家が農家で稲作をしています。小さい頃から手伝いをしているうちに稲作に興味を持ち、深く学びたいと思い志望しました。

夢中になっていること

稲作の1年間について勉強できる作物畜産専門分会の実習が好きです。その年の気候により失敗することもあります。自分たちの手で一から作れることが稲作の魅力だと思います。

将来の目標

卒業後は農業大学校に進学し、農産を専攻します。肥料についての知識を蓄え、稲作について今よりも知識を増やし、将来的には就農したいです。

JAに期待すること

自分たちが普段食べているお米や野菜がどのように育てられているのかをもっと多くの方に広めてほしいです。



食料の安定供給や、農業の持続的発展を図っていくためには、新規就農者の確保と、その育成を図ることが必要となってきます。そのために、農業高校や農業大学校等における人材育成が担う役割は大きな要素の一つといえます。
今回の特集では、これからの地域農業や食を支えていきたいと県内の高校で農業や食品分野で学びを深め、頑張っている生徒を紹介します。



JAおおふなと

大船渡東高校 農芸科学科 3年
菅野 二千夏さん (18)

好きな農畜産物… サツマイモ

学科の志望理由

ツバキを使った加工品を作っている地元の企業と学校で栽培しているツバキを使用して産学連携プロジェクトを行っていて、このことに興味を持ったからです。

夢中になっていること

アユの酒粕漬けをツバキの剪定枝で燻製させ、これを商品化する取り組みと、2月から開催する「つばきまつり」で販売するツバキ苗の手入れに夢中になっています。

将来の目標

高校での経験を生かして、春から地元のJAに就職します。また、気仙のツバキをたくさんの人に知ってもらいたいです。

JAに期待すること

気仙のツバキの素晴らしさをたくさんの人に広めたいので、地元の方と一緒にツバキを育てる活動があるといいなと思います。



JAいわて平泉

千厩高校 生産技術科 生産科学コース 3年
那須野 歩さん (18)

好きな農畜産物… 米

学科の志望理由

志望校を決める際、中学の先生に本当に好きなものは何かと問われ「農業」が一番好きだと気づきました。将来、家を継ぐことを考え、米作りの基本を学びたいと思いました。

夢中になっていること

専攻に分かれての総合実習です。水稲を選択しており、グラウンドの工事のため新たに造成された水田で今年度初めて米作りをしました。

将来の目標

地元の建設会社へ内定していますが、学んだことを生かし農業を手伝いながら家の田畑を守っていきたくと思います。

JAに期待すること

JAまつりなどに地域のよさこい団体などを呼びながら、JAと地域が一体となって盛り上がるような企画をどんどんやってもらいたいです。



JAいわて中央

紫波総合高校 総合学科 エコロジーフード系列 3年
藤原 英利さん (17)

好きな農畜産物… 芋

学科の志望理由

家が農家なので農業に興味を持ち、学んだことを生かせるのではと思いました。3年生からは「草花」の分野を専攻しています。

夢中になっていること

文化祭での販売に向けて「シクラメン」の栽培に取り組みました。花が日々成長する姿を見ることが楽しみでもあり、環境作りなどは知識が必要だと実感しました。

将来の目標

春には農業機械を扱う会社への就職が決まっています。幼少期から機械に興味があったことや農業に関わる仕事をしたいと思っていたので、農業機械を通じて農業生産の手助けがしたいです。

JAに期待すること

若い人の「農業離れ」をよく聞きますが、多くの人に農業に興味を持ってもらえるような活動があるといいなと思います。



JA岩手ふるさと

水沢農業高校 農業科学科 3年
高橋 一斗さん (18)

好きな農畜産物… 前沢牛

学科の志望理由

小さい頃から動物が好きで、動物の飼育などに興味がありました。畜産が盛んな地域なので、牛について学びたいと思いました。

夢中になっていること

畜産の実習で繁殖牛の飼育などを学んでいます。今は1月に開催される第2回和牛甲子園に向けて上位入賞を目指し飼育しています。

将来の目標

春からは、岩手県立農業大学校に進学します。農業大学校では一貫経営を学び、肥育牛生産者がどんな牛がほしいかを学びたいです。

JAに期待すること

牧草からロール形成作業時間を短縮できる機械などを考えてほしいです。地元の農畜産物のPRもどんどんしてほしいです。

想いやニーズの実現をサポート

くらしの活動

J A いわて花巻は、安心して暮らせる豊かな地域づくりの実現に向けて「くらしの活動」を展開し、組合員・地域住民の自主的な取り組みをサポートしています。特集2では、くらしの活動について紹介するほか、12月1日に開いた「くらしの活動大会」の様子をお伝えします。

「くらしの活動」とは

組合員・地域住民の皆さんの生活の中には、より良い人生を歩んでいくためのさまざまな想いや願い、多様なニーズがあります。そのような事柄を叶え、安心して暮らせる豊かな地域づくりの実現に向けて、仲間とともに創り上げる自主的な活動が「くらしの活動」です。J A では、皆様が自主的に取り組むくらしの活動をJ A の総合事業を活かしてさまざまな面から積極的にサポートしています。

重要な取り組み

J A は、第3次中期経営計画で3つの基本目標を掲げており、くらしの活動は「地域の活性化・協同活動の活発化」「結びつき強化・経営基盤の強化」に繋がる重要な取り組みとして位置付

けています。J A では、部門間連携を強めながら一体となつてくらしの活動に積極的に取り組み、地域の特色を生かした豊かで暮らしやすい地域社会の実現を図っています。

主役は組合員・地域住民

J A が取り組むくらしの活動は、大きく分けて「食と農を守る活動」「生活文化活動」「健康福祉活動」「相談活動」の4つがあります。これらの活動の中心にいるのが組合員・地域住民の皆様です。J A では、このような活動をサポートするため、全27支店がそれぞれ地域の歴史的伝統文化を尊重した「支店行動計画」を策定。各支店が拠点となり、地域に密着しながら組合員・地域住民の皆様とともにくらしの活動に取り組んでいます。

安心して暮らせる豊かな地域社会の実現

組合員・地域住民の多様なニーズ

- 食と農を守る活動**
 - ◆ちゃぐりんスクール
 - ◆地産地消活動
 - ◆食育リーダー「花巻まんまーず」
 - ◆グリーン・ツーリズム
 - ◆農業学習体験
 - ◆市民農園 など
- 生活文化活動**
 - ◆家の光記事活用グループ
 - ◆支店協同活動
 - ◆子育て支援
 - ◆ふれあいプラン
 - ◆農業まつり
 - ◆地域貢献活動 など
- 健康福祉活動**
 - ◆人間ドック受診促進
 - ◆健康寿命100歳プロジェクト
 - ◆ウォーキング教室
 - ◆見守り活動
 - ◆認知症予防 など



相談活動

- ◆信用
- ◆生活
- ◆共済
- ◆介護福祉
- ◆営農
- ◆葬祭 など

J A いわて花巻くらしの活動

J A 事業

くらしの活動大会

ヒント溢れる大会

J A は12月1日、J A 総合営農指導拠点センター（花巻市野田）で「くらしの活動大会」を開きました。組合員や役員など約5000人が参加。農事組合法人とたんの熊谷健一代表理事が講演したほか、2つの団体が活動実践発表を行いました。内容は、くらしの活動を展開していく上で参考となるヒントや活力で溢れ、参加者は仲間や地域と共に活動していく事の素晴らしさを実感しました。また、記念講演ではタレントの島田洋七さんがさまざまな笑い溢れる出来事を紹介。会場を笑いの渦に包みました。

共に歩む

J A は、組合員一人一人の課題を協同の力で解決していく組織です。J A は支店を拠点として活動を展開し、組合員・地域住民が抱えるさまざまな問題に向き合い、共に歩んで解決します。豊かな地域と農業を次世代に伝え残していくために繋がり大切にし、地域の明るい未来に向けて共にくらしの活動を展開していきましょう。

講演

地域コミュニティ維持のための農家組合組織のありかたについて

農事組合法人とたん 熊谷健一 代表理事

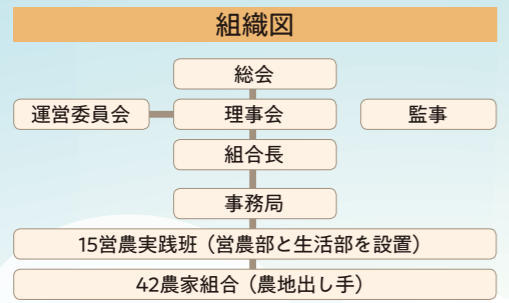


農事組合法人とたんは、平成25年3月に設立しました。盛岡市の都南地域を管内とし、組合員数約950人、経営面積約980haと、日本最大級の農事組合法人です。今回は、熊谷健一代表理事に講演いただいた内容の一部を紹介します。

私たちの法人には42農家組合があり、大字単位で15営農実践班を構成しています。農村は農業だけでなく食文化や郷土芸能の継承、食農教育も担っていると考え、各営農実践班に営農部と生活部を設置しています。

例えば、湯沢営農実践班の営農部では、水稲や野菜の栽培のほか、青空指導会の開催やライスセンターの管理・運営などを行っています。特に、約25年間続いているイベントが「勤労感謝の集い」です。約100人が参加し、縄ない・豆拾い競争などを子どもから大人までみんなが参加して班対抗で行うほか、小学生による図画・習字の展示や野菜観察発表を実施しています。このように幅広い年代が集い、全員が主人公となり楽しむ事が長くイベントが続いている秘訣だと思います。一方、生活部では、味噌を共同作業で作っているほか、子供会や育成会との交流、地元小学校での出前授業などを行っています。

このように、活発に事業を進めるためには地域にリーダーが必要だと思います。行動なくして成果なし。目標を立てて賛同する人を増やし、行動する人が「リーダー」です。現場の声を理解し、それを行動に切り替えていくのが本当のリーダーで、地域の元気に繋がると思います。ぜひ、明日に向かって行動を起こしてください。



活動実践発表



女性部北上地域支部フレッシュ部
高橋安希 部長

女性部とおのよつば地域支部
昆野裕子 支部長



(上)島田洋七さんの次々飛び出すエピソードに、会場は笑いの渦に包まれました
(右)参加者を楽しませた島田洋七さん





新堀保育園でラ・フランス贈呈式 地元の保育園にプレゼント



ラ・フランスをおいしそうに頬張る園児

花巻地域果樹生産部会石鳥谷支部は12月12日、新堀保育園にラ・フランスを贈りました。

同保育園にJAの小森田裕之理事や藤原敬悦副支部長、生産者の小原和夫さんなどが訪れました。小森田理事は「みんなに食べてもらい、おいしいなと思ってほしくて持ってきました」とあいさつ。藤原副支部長と小原さんがラ・フランスを代表園児に手渡し、おやつ時間に全員で食べると、「おいしい」と笑顔が溢れました。

花巻市石鳥谷町は、同市内のラ・フランス生産量の8割を占め、現在は35人で栽培。今年度は約640個を同町内の保育園5カ所へ贈りました。



「銀河のしずく」でおにぎり作り やさわこども園の園児が体験



川村さんに教わりながらおにぎりを握る園児

JAや花巻市、県などで組織する花巻市農業振興対策本部は11月27日、やさわこども園(同市矢沢)で県オリジナル水稲品種「銀河のしずく」を使ったおにぎり教室を初めて開きました。

教室は、食育の推進と「銀河のしずく」の認知度向上を目的に開きました。4、5歳児26人が「生産者マイスター」の川村茂樹さんから米作りについて説明を聞いたほか、もみ・玄米・白米の3種を触ったり、匂いをかぐなどして違いを見比べました。

おにぎりは園児たちが米とぎから行い、「あつつい」などと歓声をあげながら1人2個ずつ握り、出来上がったおにぎりを給食の時間に頬張りました。

地元のお米と豚肉を食べて全国勝利を! 全国大会出場校に贈呈

佐藤主将は「ベスト8以上の目標に向け、感謝を胸に一戦一戦を大事に戦いたい」と決意を述べました。

また、12月12日には遠野高校(遠野市六日町)で贈呈式を開き、「第97回全国高校サッカー選手権大会」



黒沢尻工業高校ラグビー部に贈呈



遠野高校サッカー部に贈呈

JAいわて花巻とJA全農いわては、ラグビーとサッカーの全国大会に県代表として出場する高校に、地元産の農畜産物と金一封を贈り、全国での健闘を祈りました。

12月10日には本店(花巻市野田)で贈呈式を開き、「第98回全国高等学校ラグビーフットボール大会」に出場する黒沢尻工業高校に北上市産米「ひとめぼれ」120kgと県産豚肉1頭分、金一封を贈呈。JAの阿部勝昭組合長とJA全農いわての高橋司副本部長が佐藤稜真主将に目録を手渡しました。

阿部組合長は「お米を食べて、たくましく試合に臨んでほしい」、高橋副本部長は「ラグビー人気に火をつけるような活躍に期待している」と激励。

JAの阿部組合長とJA全農いわての高橋副本部長が太田竜雅主将に目録を手渡し、阿部組合長は「地元産の食べ慣れたお米を食べ、体力を付けて頑張ってもらいたい」と声援を送りました。高橋副本部長は「県内チームの思いも背負いながら、優勝を目指して頑張ってもらいたい」と激励し、太田主将は「応援してくださる方々への感謝を忘れずにベストを尽くして戦い、ベスト8以上を目指す」と意気込みました。

鉛筆一本で描く迫力の世界 遠野支店で「米田康一氏鉛筆画ギャラリー」を開催中



窓口の待ち時間に、来店者の目を楽しませている鉛筆画

遠野支店は12月から、支店店舗内(遠野市松崎町)で「米田康一氏鉛筆画ギャラリー」を開いています。

鉛筆画は、同市宮守町で「じんぎすかん食堂よねたや」を営む米田さんが提供。市内の名所や肖像画、動物など、鉛筆で繊細に描かれた約20点を展示しています。一見、白黒写真のように見える鉛筆画を、来店者は一点一点目を凝らして見るなどし、楽しんでいきます。

長澤敏秀支店長は「地域に密着し、組合員や地域住民に気軽に立ち寄っていただける支店作りを目指す」と話しました。

この企画は、1月31日まで開いています。

スマート農業の普及拡大目指す ドローンによる農薬散布実演会



飛行前にJA全農の職員から機体の説明を聞く参加者たち

JAやJA全農は11月28日、花巻市の水稲ほ場で農薬空中散布機「ドローン」を使った防除実演会を開きました。

生産者やJA職員など約50人が参加し、DJI社製とナイルワークス社製の2機を使ってオペレーターが実演しました。無人ヘリコプターと比較すると、モーターを使用しているため騒音が発生しにくく、1回のフライトで1haの散布が可能。操作の仕方や注意点が、必要経費なども聞き、農作業効率化に向けての新たな技術に参加者たちは真剣に耳を傾けました。

JA担当者は「実演会を開くことによりスマート農業の普及拡大を目指したい」と話しました。

営農振興

農事功績表彰で緑白綬有功章を受章!

大日本農会が主催する平成30年度農事功績表彰の複合部門で、西和賀町でやまに農産(株)を経営する高橋明さん・医久子さん夫妻と、遠野市で民宿「MILK-INN江川」を経営する江川幸男さんが緑白綬有功章を受章しました。

◆高橋明さん・医久子さん夫妻

やまに農産(株)は、水稲や野菜、苗物の生産のほか、同町の特産品であるワラビを利用した農産加工、観光農園を取り入れた複合経営を行っています。特にワラビの加工に力を入れ、明さんが考案した「澱粉濾過精製機」でわらび粉を製造。医久さんは、町内の菓子店3店舗と「わらび餅の里づくり協議会」を設立し、わらび粉100%のわらび餅を商品化するなど、地域農業に大きく貢献しました。



11月20日には本店(花巻市野田)を訪れ、島津秀三郎専務に受章を報告。明さんは「受章を励みに、さらに地域農業を守りたい。今後もJAと連携し頑張りたい」と話しました。

◆江川幸男さん

江川さんは、酪農を経営の柱として原木きのこや山菜の生産・販売のほか、農家民宿やどぶろくの製造・販売を組み合わせた経営の多角化で、山間地域におけるアグリビジネスモデルを実現しています。特にどぶろくの製造に力を入れ、市と連携して「どぶろく特区」認定に尽力するなど、地域資源を生かした多角的な活動により、地域の農林業の発展に貢献しました。

園芸

西南アスパラガス部会設立40周年



北上地域西南アスパラガス部会は、設立から40周年を迎えました。同部会は、昭和51年に農家4戸でホワイトアスパラガス4.2haを栽培したのが始まり。平成元年度には初めて販売額が1億円を超え、23年度から25年度も1億円を超えましたが、農家の高齢化や農地集積により作付面積・農家数ともに年々減少。今年度は65戸が栽培し、販売額約5377万円となりました。

11月29日には、ふるさと体験館「北上」(北上市和賀町)で記念式典を開催。部会員やJA職員など約60人が参加し、佐藤祥行部会長は「親から代替わりしている人がいる事をチャンスととらえ、部会一丸となって販売額1億円の復活を目指す」と力強くあいさつしました。

畜産

研修会を開催し、同世代と交流

肉牛繁殖生産部会花巻支部青年部と矢巾町和牛改良協会青年部は11月22日、矢巾町にある農家で研修会を開きました。



研修会は、各青年部の代表同士が友人だったことがきっかけで3年前から始まりました。一昨年は花巻市の農家2戸、昨年は遠野市の農家1戸の越冬放牧を視察。今年、JA全農いわての職員も参加して矢巾町内にある農家4戸を視察し、牛舎の造りや飼養管理などについて情報交換を行いました。

営農部畜産販売課の高橋勉課長補佐は「同世代同士の交流を図る機会があまりないため良い取り組みだと思う。今後もこのような取り組みを続けていく」と話しました。

各グリーンセンター定休日

1・2月の定休日と営業時間は次の通りです。ご確認の上ご来店ください。

※定休日と営業時間はそれぞれの店舗によって異なりますのでご確認ください。
※右記のほかに、2月28日(木)が第4四半期決算棚卸しのため全店舗休業します。

	1月の定休日	2月の定休日	営業時間
花巻	1/5(土)・日・祝日	日・祝日	8:30~17:00
石鳥谷	1/12(土)・1/26(土)	2/9(土)・2/23(土)	
大迫	土・日・祝日	土・日・祝日	
東和	1/5(土)・1/19(土)	2/2(土)・2/16(土)	
北上	1/13(日)・1/27(日)	2/10(日)・2/24(日)	
西和賀	土・日・祝日	土・日・祝日	
遠野	1/12(土)・1/26(土)	2/9(土)・2/23(土)	

●お問い合わせ先: 営農部生産資材課 ☎ 0198-22-6192 または、最寄りのグリーンセンターまで

園芸

遠野地域野菜生産部会27年ぶりにピーマン販売額1億円達成!

遠野地域野菜生産部会は11月30日、遠野市のウェディングパレス道で「ピーマン販売額1億円達成大会」を開きました。生産者やJA、行政機関、市場担当者など約100人が出席。平成30年度優良生産者表彰として、販売額・1本当たり収量の2部門で表彰を行いました。「大会宣言」では、産地拡大に努めることなどを宣言し、参加者全員で頑張ろう三唱を行いました。

遠野地域野菜生産部会ピーマン専門部の菊池由雄部長は「1億円達成までに月日はかかったが、達成することができてよかった。今年度は、単価高だけでなく出荷量も増えたことが良かった。遠野地域として産地化を目指し、今以上に突き進みたい」と力強く話しました。

◆これまでの歴史

- 昭和53年: ピーマン栽培開始
- 昭和62年: 遠野地域ピーマン選果場完成
- 平成3年: ピーマン販売額1億円突破
- 平成10年: トンネル栽培を導入
- 平成18年: 高齢化、天候不順、単価低迷

平成26年: 石鳥谷園芸センターへ一元集約
平成30年: 27年ぶりに1億円販売額達成

今年度は生産者79人が栽培面積5.9haで栽培し、出荷量307t、販売額約1億4000万円となりました。

~大会宣言~

「楽しく・続ける・産地」を合言葉に新たな販売目標達成を目指します。

- ・新規・若手生産者の育成に地域一体となって取り組み産地拡大に努めます。
- ・栽培技術の習得に努め反収向上に努めます。
- ・専門部活動に積極的に参加し仲間づくりをします。
- ・2021年の販売目標額を「1億1000万円」を超える、販売額を目指します。



米穀

農家組合法人なべくら 各コンクールで堂々の受賞

花巻市の農事組合法人なべくらの藤井勇幸さんが岩手県が主催する第2回「銀河のしずく」頂上コンテストで第3位を受賞し、同法人の高橋光精さんが米・食味鑑定士協会が主催する第20回米・食味分析鑑定コンクールの都道府県代表お米選手権で特別賞を受賞しました。

12月4日に藤井さんと高橋さん、同法人の高橋春雄代表が阿部勝昭組合長に受賞を報告しました。

◆第2回「銀河のしずく」頂上コンテスト

岩手県やJA全農いわてなどが開き、生産者の意欲向上を図ろうと昨年から始まりました。県内で栽培する490経営体や栽培適地内で農業教育を行う高等学校などの中から、56点が出品。測定機を使った審査で10点に絞られた後、食味試験で特に評価の高い上位4点が選抜されました。11月19日に北上市で開かれた最終審査では、米穀関係者や調理師などの5人が外観(白さ、ツヤ)、香り、味、粘り、硬さなどを総合評価。審査の結果、藤井さんが第3位のいわて純情米需要拡大推進協議会長賞を獲得しました。藤井さんは「賞を頂けて光栄に思う。更に上を目指し頑張りたい」と話しました。



◆第20回米・食味分析鑑定コンクール

米・食味鑑定士協会や飛騨地域実行委員会などが開いた食味を重視した国内最大のコンクール。世界各地から5717点が出品され、測定機を使った審査を通った各部門の代表者130人が最終審査に進み、官能(食味)審査を30人の審査員が行いました。審査の結果、高橋さんが出品した「ひとめぼれ」が、岩手県で1番を獲得しました。高橋さんは「うちの米はうまいと自信をもって言える。今後も今まで通り頑張りたい」と話し、高橋代表は「法人のメンバーが賞を頂けて嬉しい。これもJAの営農指導員の指導のおかげだと思う。今後もレベルが上がるように頑張りたい」と話しました。

農家、農業法人の皆さんへお知らせです！

JA農業経営管理支援事業

会計記帳代行 & 申告事務支援

JAいわてグループでは、農業者の皆さんの**所得向上**と**生産拡大**を応援するため、簿記記帳・決算書作成の代行を行っています。

平成31年度分の利用者募集中！

個人農家：平成31年1月から対応
農業法人：平成31年3月以降に開始する事業年度から対応

●主な代行事務

●青色申告対応の各種帳簿の作成・電子保存
農家の皆さんの経理データをJAの専用システムに入力します。

●決算書類の作成

白色・青色申告双方に適用可能です。

メリット

- 事務・コスト負担の軽減化により、農業経営に集中できる！
- 適正な帳簿管理のほか、各種税法・税制改正に対応した税務申告ができる！
- 青色申告特別控除(65万円)の適用により、所得税・住民税・国民健康保険税の節約に！
- 経理処理や税金の悩みなど、JAスタッフや税理士にいつでも気軽に相談できる！

●JA取引は自動仕分入力！手間とコストを大幅カット！

●会計記帳代行を利用する場合の要件(農家・農家法人が行うこと)

- 利用料金のご負担(右表参照)
- 前年度の確定申告書など必要書類の提出
- 現金出納帳(JA取引以外)などの提出(原則毎月)
- 定期個別面談などへの出席(年3回～4回)

基本料金 (年間・税抜)	農家	農業法人
	35,000円～	100,000円～
	※経営規模に応じて増額	※経営規模に応じて増額
	※このほか、経営実態に応じて加算料金が発生します	

税務申告書の作成は、別途、税理士への依頼が必要になります。
詳しい代行の流れなどは下記までお問い合わせください。JAいわて花巻のホームページにも掲載しています。

お気軽にどうぞ▶ 営農部営農振興課または各地域営農センター営農振興課 ☎0198-23-0985



県立盛岡農業高等学校特別専攻科(農業科)「学生募集」

平成31年度盛岡農業高校特別専攻科入学生の再募集を行います。詳細は次のとおりです。盛岡農業高校特別専攻科の入試に関する詳細は、ホームページをご覧ください。電話にてお問い合わせください。

◆内容

特別専攻科は、新規就農を志す方が週2日登校し、仕事と学業を両立させながらスキルアップを目指す2年制の社会人向けの学科です。

◆入学対象者

- 高校を卒業して新規就農する農業後継者
- Uターン、Iターン就農する方
- 農家に嫁いだ方
- これから就農を志す方
- 就農しながらスキルアップを希望する方など

◆入試日程(再募集)

- 願書受付 2月20日(水)～3月5日(火)
- 試験日 3月13日(水)
- 合格発表 3月19日(火)

●お問い合わせ
県立盛岡農業高等学校特別専攻科
☎ 019-688-4211
Eメール moa-h@iwate-ed.jp



※「役員室より」はお休みです。

園芸品目を栽培してみませんか？ ～園芸品目説明会～

北上市内で、新たに園芸品目の生産、面積の拡大をお考えの方を対象に説明会を開催します。

■日時

1月24日(木) 午前10時～正午

■場所

北上支店2階会議室
(北上市流通センター19-33)

■内容

園芸品目の新規導入や面積拡大、経費や収支などについて個別に相談対応します。

■対象者

出荷を目的とし、北上市内でピーマン・アスパラ・ねぎ・小菊などの生産を考えている方

※家庭菜園向けではありません

●お問い合わせ

北上地域営農センター園芸販売課
☎0197-71-1333

花巻市スマート農業推進シンポジウム ～農業の未来を考える～

スマート農業の有効性や技術導入に向けて理解を深めるために、農林水産省やスマート農業技術を導入している北海道の経営体から講師を招き講演会を開催します。

◎日時：2月6日(水) 午後1時30分～4時(開場午後1時～)

◎場所：JA総合営農指導拠点センター(花巻市野田335-2)

◎入場料 無料

◎内容

- ①基調講演「スマート農業推進に向けた取り組みについて」
- ②検証報告「平成30年度実証事業の結果について」
- ③導入事例紹介「スマート農業技術の導入による先進事例について」

お申込み・お問い合わせ 花巻市農業振興対策本部事務局 ☎0198-23-1400

【JA広報誌「ほらーの花巻12月号」の掲載内容に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。】
【10ページ「がんばる青年部・8行目」(誤) 大堰功太さん(正) 大堰巧太さん】

●理事会日より
次の議案について審議され、全議案議決されました。
第11回理事会 開催日：12月21日(金)
●決議事項
第1号議案 共済規程の一部変更について
●監事会日より
次の事項について協議されました。
第11回監事会 開催日：12月21日(金)
●協議事項
平成30年度第2回常勤理事と監事との定期的会合について

ほらーの 広場

ほらーの広場は、読者の皆様との交流の場です。皆様からテーマにちなんだお便りを募集し、紹介しています。

今月のテーマ 2019年の抱負

投稿を頂いた方の中から抽選で、今月は

銀河のしずく(3kg)をプレゼント!

下の子どもが遠くに就職が決まり寂しくなります。その寂しさを紛らすためにも何か習い事を始めようと思います。(北上市・ミント)

消費税が10%になるのでさらなる節約をしながら、500円玉貯金をしようと思います。(北上市・ネコ大好き)

手紙好きの私。SNSが中心の今だからこそ、手紙に手書きの一言を添えて、全国にいる友人に去年以上に送りたいです。(北上市・富士山)

資格マニアの私は、今まで取得した資格を活かして、人のためになることにチャレンジしたいです。(花巻市・K.T)

フィットネスクラブに通い1年半が経ち、だいぶ筋力がつきました。今年は、体力と体重を20代の頃にしたいです。(北上市・かすみ草)

4月から新しい職場に異動です。仕事を覚え、周りの方とコミュニケーションを取りながら楽しく仕事をしたいです。(花巻市・にゃんこ)

来月のテーマ(3月号掲載)「我が家のルール」応募締切/2月8日(金)消印有効

テーマにちなんだエピソードを募集します。

ちょっと変わった我が家のルールなどがありましたらお送りください。

応募方法：①テーマにちなんだお話し②郵便番号・住所・氏名・年齢・電話番号③ペンネーム④JAや広報誌に関するご意見・ご感想を記入の上、はがきまたはメールにてご応募ください。右記のQRコードからのご応募もできます。

※投稿頂いた中から内容を誌面に掲載させていただきます。ペンネームが無い場合はイニシャルでの掲載になります。

●はがき：〒025-8504 花巻市野田316-1 JAいわて花巻組織広報課「ほらーの広場」宛

●メール：polano@jahanamaki.or.jp ●当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。

5名様にプレゼント!

そうめんセット



JAいわて花巻
応募フォーム

https://www.jahanamaki.or.jp/entry/index.php

風趣点景

管内四季だより ③4



西和賀町沢内字貝沢の
県道一号线から大木原へ入
る道で、橋の上から偶然こ
の景色に出逢いました。

この小川は水量も少な
く夏場はブロックが敷かれ
ていましたが、その上に雪
が積もり冠雪となってこの
ようにユーモラスな造形が
出来たのです。

この年(三〇年)は例年よ
りも雪が多く毎日雪かき
に追われ、雪はもうたくさ
んといった日々。厄介者の
イメージしかない雪からの
小さな贈り物でしょうか。

「雪からのプレゼント」

西和賀町沢内(長橋川)

写真・文/高沢 翔(西和賀町沢内)

西和賀町をメインに風景写真を撮っている写真家。

ホームページ「高沢翔写真館」<http://shou.eek.jp>

撮影データ(デジタルカメラ) 2018年2月上旬
ISO感度: 100 絞り: f22 露出補正: +0.7



入組して、早くも4回目の
新年を迎えた。最近では、
学生時代の記憶がだんだんと
曖昧に……。そんな事を言いつつ
も、まだまだ20代前半。俗に
言う、若者だ。私たち広報担
当者2人は「若者コンビ」。至
らない部分が多々あるが、こ
のような時代だからこそ、若者
力が輝く瞬間がきっとあるの
ではないだろうか。取材先の
方々を始め、組合員や職員の
皆様からご指導をいただきな
がら、若者力とこれまで培っ
てきた経験を活かして広報活
動に励みたい。新たな気持ち
で2019年を駆け抜ける！
今年も宜しくお願い致します。

「佐藤」

年が明け亥年がスタートし
ました。干支にまつわる
エピソードは諸説ありますが、
その1つに亥が十二支で12番
目になった理由をご紹介しま
す。本当は亥が1番最初に着
いたのですが、真つすぐ走る
ことのできない性分のため
ゴールを通り越してしまい、
戻って来た頃には他の動物に
遅れをとって12番目になった
そうです。年女の私ですが、「猪
突猛進」とならぬよう時には立
ち止まり、周囲を見渡す余裕
を持って仕事に臨みたいと思
います。

「木村」



編集後記

From Editor's

